

第43回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和元年11月11日（月）午後3時～5時まで
開 催 場 所	松村ビル別館503会議室
出 席 者	国吉委員、高田委員、高橋委員、村松委員（五十音順）
欠 席 者	奥井委員、望月委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 市民推進会議広報誌第37号原稿案について 2 見える化企画案について 3 その他
議 事	<p>事務局： ただ今から第43回横浜みどりアップ計画市民推進会議広報見える化部会を開催いたします。</p> <p>本会議は横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第7条第3項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっております。本日は委員定数6名のところ、4名の出席ということになっておりますので、審議会が成立することを報告いたします。また、同要綱8条によりまして公開となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けており、会議録につきましても公開とさせていただきます。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等への掲載をさせていただくことも併せてご了承願います。それでは、この後の進行につきましては高田部会長にお願いしたいと思います。部会長、よろしく願います。</p> <p>高田部会長： それでは、議事に入ります。市民推進会議広報誌第37号原案についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p> <p>高田部会長： ありがとうございます。</p> <p>それでは、この原稿をご担当していただきました村松さんに取材先のご様子やご意見等をお願いしたいと思います。</p> <p>村松委員： まず紙面のレイアウトについてですが、左面を読んでから右面を読むと、重複しているように感じるので、地図を真ん中にしてその周りに記事や写真を入れ、見学したところとその情報がつながるようにするレイアウトがいいのではないかと思います。</p> <p>また、市民目線と行政目線の記事が混在しているので、市民が書いている所と行政が書いているところを、前回の号のように色を変えて、行政の方にはキャラクターの葉っぱを置くなどわかりやすくした方がいい。</p> <p>あと、6次産業化の説明文は、本文と近いほうがいいのではないかと思います。6次産業化は、農業に関心ある人はみんな知っていて、関心のある人には浸透してきていると思うのですが知らない人も多いので。ほかに、細かいことだと、高橋さんが「横浜市産」が言いにくいとおっしゃっていますが、加工品を作っている私たちにとっては、ラベルに「横浜市産」と書くんですね。だ</p>

から、「横浜市産」という言葉は半分公的な言葉として、そんなに違和感はないのですが、確かに言いにくいので、「横浜市内産」がいいかなと思いました。

高橋委員： かぎかっこがつくと、何か意味を持たせなくてはならないのですが、かぎかっこがなければ、一般的な文章なので、市内産の新鮮な野菜がございますというだけなのに、かっこに違和感があるのかもしれない。

村松委員： そうですね。かっこをとって、地元産でもいいかもしれない。市内全体ではなくて、割とこの地域の周辺のものが集まっているので。

高田部会長： かぎかっこをつけずに「地元の新鮮な野菜」でもいいのかもしれないですね。  
「6次産業化」についてはどうですか。この言葉をどうしても使わなければならないのか。

村松委員： 相澤さんご本人がおっしゃっていたのですよね

事務局： 「6次産業化」は、この広報誌を読んでもらった市民の方が覚えなきゃいけないワードではないと思いますが、農家さんにはとてもなじみがある言葉なんでしょうね。

高橋委員： 「6次産業」は、時代的には単に作るだけではなくて、それを加工して、付加価値を付けて売るということで、それをやるかどうかはその現場の人たちにとってはとても重要なこと。

高田部会長： ある意味、大都市の農にとっては、意味があることなのかもしれないですね。

事務局： 自分たちの労力や、さまざまな付加価値を付けながら、価格に反映して、自分の意思で値を付けて売れるということが、農家にとっての「6次産業化」の一番の魅力なんですよ。  
だから、そういったことが伝わればいいのかなっていうふうには思います。

村松委員： 法律ができたのも、少し前ですよ。法律できたということは、それで補助金などが付くということですよ。

事務局： そうなんですよ。相澤さん自身が一番にその支援を受けたので、「6次産業化」という言葉に対しては思い入れがあるのだらうなと思います。

高橋委員： 「6次産業化」という言葉をそのまま使ったほうがいいのかもしいですね、他の横浜に住む農家さんや、いろいろな方たちにも認識してもらうためには。

事務局： この「6次産業化」という言葉を残すのであれば、この段落のすぐ下に注釈として、簡単な説明を入れるのはいかがでしょうか。そのほうがきっと目が泳がなくて済むかなと思います。

高田部会長： そうですね。いいと思います。

事務局： あぐりツアーの説明はどうですか。

高橋委員： あぐりツアーホームページへの2次元コードか検索窓を入れるのはどうでしょう。

高田部会長： HPへの案内が載れば、ここの説明はとってもいいかもしれないですね。あぐりツアーの説明はここ書いてくださっているから。私が少し気になったのは、そもそも私たちがこの「ACTION」と付けたのは、これを読んで行動にすぐ移せる提案をしますということなので、これを読んだら、次にすぐ「ACTION」を起こせるような情報を提供するということが非常に重要じゃないかなと思います。

高橋委員： そうですね。だから、「あぐりツアー」と「収穫体験」はここからという2次元コードがあるといいかもしれない。

事務局： ではキャプションを入れられるように業者さんとレイアウトを調整します。

高田部会長： では国吉さん、今、皆さんにお書きいただいた所のご感想とか、当日のお話とか、気が付かれた点などのご説明をお願いします。

国吉委員： 説明文というような形で、なるべく端的に伝えられる言葉だけを選びました。サツマイモの所は最初はサツマイモの写真だけだったんですね。でも、焼き芋のこのつぼ焼きっていうのが特徴的なのかなと思ったので、つぼ焼きの説明を加え、それに合わせて写真を入れていただきました。

高田部会長： 雰囲気出ていいですね。

国吉委員： グリーンファームでもこの横山さんのサツマイモは販売されているので、本当はそこまで書けたらよかったのですが、どれぐらいコンスタントに置いているかわからないので、そこまで触れませんでした。

高田部会長： では、「6次産業化」という言葉の説明を、この文章のすぐ下のほうに、要約した言葉で補足するという形になりました。それから、「あぐりツアー」については、最初の所でおおよそ説明がされているので、2次元コードを入れていただきます。どこに行ったらいいのかなど、『ACTION』につながる情報を載せましょうということが決まりました。

では、最後のページの所の「現地調査に行ってきました！」の所では、今の「取組について検証」という言葉の他に何か気が付かれた点はありますか。書いていただいた高橋さんいかがでしょう。

高橋委員： 「はさかけ」か「はざかけ」という言葉は方言のようで、広辞苑で調べると「稲掛け」と書かれたりしていました。

村松委員： ちょうど2～3日前にNHKで「はさ掛け」と、ちゃんとキャプションも出して、ああいう様子をやっていたんですね。「私たちも農家さんに行っていますけど、「はさ掛け」って言っていますし、「はさ掛け」のほうが一般的じゃないかと思います。

高橋委員： 辞書には「はさ」はありましたが、「はさ掛け」などは載っていませんでした。地域によって異なるのかもしれない。

事務局： 「稲掛け」であれば、知らない人も、稲が掛かっているとは分かりますよね。

高橋委員： そうですね。

高田部会長： では、「稲掛け」だと分かりやすいということで「稲掛け」にしましょうか。

注). 後日、事務局より、JA作成の学校の水田体験紹介動画に「刈り取った稲は棒にかけて乾燥させる。これを稲架（はさ）、作業を稲架掛け（はさがけ）と呼ぶ」との説明があり市内の学校教材としても使われているとの連絡があり、「はさがけ」にした。

その他の「横浜の農と学校連携」はこのままでいいですよ。

国吉委員： はい。①、②っていう所の上に書いてあるんですけども。文章の後に「①和泉小学校ビオトープ」とかあったほうが、わかりやすいかと思えます。

事務局： 文章のところにあったほうが確かに分かりやすいですね。デザイン会社と相談してみます。

高田部会長： あとは何かございますか。

村松委員： ②、③の写真の説明の所で、2番目の文が「今は散策路が台風19号による倒木などで通れない状況です。」で切れて、次に3番目の文が前半、後半あるんですけど、その3番目の文の前半は、上の文の続きだと思えるんですよ。2番目の文の「通れない状況ですが、」から3番目の文の「市の協力を得て森の復旧に取り組んでいます」までを1文にして区切って、また別の話として、「愛護会の方々は、高齢者宅の庭木の剪定や…」と続けと、写真と文章が一つずつになって分かりやすいのではないのでしょうか。

高橋委員： 村松さんが言われたように、「通れない状況ですが、市の協力得て森の復旧に取り組んでいます」ということで切ったほうがいいですね。

高田部会長： 他には何かありますか。

高橋委員： 「YOKOHAMAみどりアップAction」のアルファベットの所って、大文字、小文字がありますよね。

事務局： 今は混在しています。今後統一していくべきか検討中です。

高橋委員： 両方使っておけば、商標登録することを想定すると、かえっていいかもしれませんね。

事務局： 確かにそうですね。ありがとうございます。

事務局： 中面の右側の所で、今、横山さんはこんな野菜を販売していますということは書いてありますが、買えるところが紹介されていないと思ったので、載せられるといいですよ。

高田部会長： そうですよ。

高橋委員： 横浜市の各地に直売所がありますよという紹介でもいいかもしれないですね。

事務局： 泉区役所が作っている泉区直売所マップで、「いずみ自慢」というものがあります。

高田部会長： 泉区だけじゃなくて、直売所マップはありますか。

高橋委員： あります。

事務局： 区の直売所マップは作っている区とそうでない区があります。直売所は、開設する曜日が変わったり、時間が変わったりするので、更新に課題があったりします。どこに飛ぶようにするべきか検討したいと思います。

高田部会長： 情報を発信できるところはなるべくそうしていただけるといいですね。

高橋委員： 少なくとも泉区へは飛ぶようにしとくといいかもしれない。

高田部会長： そうですね。

事務局： 最低泉区、もっと広げればもっとたくさん載せるということですね。調整します。

高田部会長： 今年の課題ではある、情報をふんだんに活用してっていうところをぜひ盛り込んでください。

事務局： 分かりました。

高田部会長： この最後の「詳しくはこちら」っていう、この二次元コードはどこに飛ぶんですか。

事務局： これは、感想フォームというものを横浜市で今回から作ったもので、広報誌を読んだ方が、感想や意見を言えるところがあったらいいなと思って作ってみました。

村松委員： この『ACTION』についてだけですか？

事務局： 『ACTION』とこれまでのみどりアップQについてです。『ACTION』で取り上げてほしいものとか、感想だとかを、投稿していただく用のものです。こういう広報誌は発行するだけでなかなかアクションをもらえないので、少しでも来たらうれしいかなと思っています。

高橋委員： 話は変わりますが、みどりアップに関して「みどりアップメールマガジン」をやっていますね。何人くらい登録されてるのですか。

事務局： 登録数はこの場ではわからないのですが、発行は月1回です。広報誌も発行したら、発行しましたよという記事を流したりしています。

高橋委員： そうですか。

事務局： 第1号も12月1日にはメールマガジン配信したいと思っています。

村松委員： 「YokohamaみどりアップAction」は、区役所には何部もありますか。

事務局： あります。区役所は30部です。今日も少し多めに持ってきたので、よければお持ち帰りいただけます。

村松委員： はい。

高田部会長： 役立ちますよね。私の取組を紹介していただいた時も、沢山の部数をいただきました。すごく分かりやすいので、活動を説明するときに、とてもスムーズになりますね。そういう意味で、各愛護会の方や、活動している私たちも含めて活用していただいている。

みどりアップの2号については以上でいいでしょうか。

では、次の議題に移ります。次の議題は見える化の企画案について、事務局の説明をお願いします。

(事務局説明)

(高橋委員提案説明)

事務局： ありがとうございます。他の提案もお願いします。

高田部会長： はい。では、今の説明を受け、どんなことをやりたいかというところですが、皆様のご意見をお願いしたいと思います。

みどりアップの認知度が4割ということですが、多いというのか少ないというのか。

事務局： そればかりは意見が分かれるところです。

高田部会長： 目標はどこまで？

事務局： 決めてはいないのですが、徐々に上げていくことを目指しています。

高田部会長： みどり税については、私もいろんなところでお話することがあって、知っているという方はだんだん増えてきたかなと感じています。調査したわけではないのであくまで実感としてですが。

でも、一体に何に使われているかということまでは、皆さん、本当には分かっていなさそうですね。

事務局： そうですね。

高田部会長： アンケートの結果から、年齢層でみると20代、30代が認知度が低いということで、そこに重点的に広報をするということですね。

事務局： はい。緑行政だけにかかわらず、きっと行政の施策全般に同じような傾向なのかもしれません。若い方はなかなか関心を持たないのか、持つ暇があんまりないということか、おそらく投票率もきっとそうですが、全般的にそういった傾向なのかなとは思っていますね。

高橋委員： 今はみどりアップという言葉やのぼり旗などを見たことはある

という方が、中身までは知らないがアンケートに知っているという丸を付ける人も多いのでは。

高田部会長：自分の中に落ちてきていないというのは事実ですね。それをもう少しちゃんと浸透させてっていうところですよ。

国吉委員： あぐりツアーに参加して、本当にお子さんたちとお父さん、お母さんが楽しそうに参加しているのを見て、やっぱり知られば参加していただけるんだと思いますし、あと、若い方は土曜日、日曜日を子どもたちと一緒に過ごそうというような、そういう機会には積極的に参加するようですので、横浜でもいろいろやっているイベントやフェスティバルを利用して、そういう場所で積極的にアピールするっていうのは効果的なのかなと思います。先ほど、高橋委員がご提案いただいたメモ帳とかだと、受け取ってくれるような、アピールできるようなブースを持つとか、今度、4月にも多分、フラワー&ガーデンショーが普及協会であると思うんですが、私も仕事でいつも行っていますけれども、そこに私たちのコーナーを設けてそこで配るとかすれば、若い人たちも、お父さんもお母さんも含めて来るいいと思います。

事務局： そうですね。そもそも少しの関心があるから、そのイベントに来てくださっているのでもいいですよ。

高田部会長：先日のあぐりツアーのアンケートも、いろんなお話を聞きたかったですというよりは体験がしたいという意見が多そうでしたね。そういう意味では「ACTION」の行動のほうに関心を持っていらっしゃるの、そのイベントを活用して、アピールをするっていうのも一つかもしれないですけどね。

例えば、どういう計画があるかはよく分からないんですけど、でも、そのイベントに参加や企画されたときに、一緒にPRしていくということもありなのではないかと思いました。そこで高橋さんのメモ用紙を配るとか。

事務局： 実は、メモ用紙は作っているものがあります。でも、高橋委員の案よりも、情報量は少ないですね。

国吉委員： イベントのときってワークショップとかでいろんな先生がお話ししたりするのをみんな、メモしたいので、やっぱりそういうのがあるといいと思います。

事務局： 受け取ってもらいやすいグッズをご提案いただいたら、広報担当に伝えられますので、ぜひご提案いただきたい。

高田部会長：あと、国吉さんおっしゃったみたいに、他のイベントの所についてPRするというのも、里山だと、緑とかそういうのに関心がある方がみえていると思うんですけど、他のイベントだと関心がない方にこれを訴えられるので、いいと思います。

高橋委員： この間、下水処理をしている水再生センターでみどりアップのパンフレットを見ましたが、古いものでした。水再生センターには、自治会とか町内会の関係の人などが見学に来たりするので、新しいみどりアップのパンフレットなどが置いてあれば手に取ってくれるかと思いました。意外とみどりアップの旗は置いてあるんですよ。

高田部会長：今日と次の会で見える化企画のアイディアを一つか二つに絞るということですか。

事務局：　今回また新しく、このブースの話もいただいたので、次回の話し合いの進捗状況で、来年度以降のスケジュールを調整できればいいかと思います。いつから始めなきゃいけないという、締め切りがあるわけではないので、目安として実行に来年度移すのであれば、今年度の最終回である次回でとは思いますが。あと、内容は多分、今のご意見がいろいろ出た中では、ここで主催してやるものと他に相乗りするものと他にやってもらうものなど、幾つかパターンはあると思うので。

高橋委員：　この部会でPR企画を検討するのはよいと思います。実際にイベントに関わってくれる職員の方とか、協力していただける方々が一緒にパンフレットなど配ってくれれば、みどりアップのPRが促進されるでしょう。また、提案したみどりアップ地図ポスターが作られるなら、学校に配るとか、ブルーラインの駅に貼ったりするのもいいと思う。

高田部会長：　すこしうろ覚えですが、確か、MARK ISのスイートハウスのほうなどに、かなり大きい鳥瞰図で横浜市全体とちょっと富士山も見えるような形で載っているものがあり、と分かりやすく理解しやすい。ただ、イラストふうだけじゃなくて、かなりリアルな鳥瞰図だったら、さらに分かりやすいのかな。  
そうすると、学校などでもイメージしやすいし、そのエリアのことも、例えば、年度で分けていって、今年はこれでいくけど、来年は次の生態系のか、ちょっと生物系を入れて、最初は緑と水に関してとか、毎年、ちょっと楽しみにできて、かつ、取っただけ。高橋さんのご提案はいいかなと思ったので、個人的に。

高橋委員：　本当はみどりアップ情報を入れた衛星画像をカレンダーにして、それをふるさと納税を寄付してくれた人に提供するとかいう形になるといいと思う。また学校などの公共施設に配布して1年間貼ってもらえれば、横浜全体のみどりアップ計画を知ってもらうよいきっかけになる。  
カレンダーでなくてもいいのですが、横浜全体が入る衛星写真は、生徒も刺激を受けるのかなと。

高田部会長：　私は、調査をしたいなっていうふうには思っていて、このACTIONを起こしていただくためには、やっぱり緑に関係している方たちの話とか内容とか、どこまでできているか、また、問題点があるからできないのかということも、明確化することが次のことにつながっていくのかなと思うので、緑に関わる方たちに聞いてみたい。

事務局：　愛護会の方とかということですね。

高田部会長：　今までは単体で愛護会に取材していましたが、全体としてもっと幅広く、全調査的にしたいなど。配布もきちっとして、返送していただくような形の調査をしたらいいのかなと思っていたのですね。今までにしたことありますか。

事務局：　土地の所有者の方には聞いていますが、活動をしている人への全調査はしていませんね。

高田部会長：3本柱のそれぞれのところで、愛護会なり、これに関係している横浜市さんで助成しているなり、検討しているなり、把握されている団体・個人と、または、農に関する所、また、町の緑なり、緑をつくる所の方たちでやっている所の皆さんに同じような調査をしたら、きっと見えてくるところがあるのではないかと。

事務局：みどりアップ計画についてどう感じているかや、ニーズなどを調査するというイメージでしょうか。

高田部会長：そうですね。きっかけは何だったかとか、目的はどういうことにしているのかとか、活動の資金はどうしていますかとか、終わった所は終わったなりにどうしていますかとか、現在の状況とか、問題点とか、今後の展望とか、その辺を聞いて、どうやれば、もっとやりやすくいけるのかなどです。

高橋委員：愛護会の人たちには今回のような広報誌を送っていますか。

事務局：公園愛護会は、定期的に4半期に1回ぐらい、送付する機会があるので、公園愛護会の方たちには毎回送っていました。あと、緑の協会のほうでやっている、地域で緑化してくれている緑化推進団体さんには送っていますね。

事務局：私たちが、普段から関わりがあるっていうと、樹林だと森の愛護会です。公園がちょっとみどりアップ計画と重なっていない部分はかなりありますけど、公園愛護会や、緑化だったら緑の協会の、緑化推進団体ですね。

事務局：農だと、農家は補助金が多かったりするから、そういうのは単体で意見を取ったりっていうのはあるので、ちょっと違いますよね、この市民の活動と。

高田部会長：農に関するところは特に私は弱いので、実情がよく分からないので、そこら辺はいろいろ教えていただければと。

村松委員：農は、いろんな枠組みで活動していますね。区でもあるし、市でもあるし。ただ、今、高田さんがおっしゃった調査は、いわゆる評価ですよ。みどりアップ計画による、税金を使った活動が、有効に使われているか、それが継続できるか、問題点は何かなどを聞いて、計画の評価をするということですね。

高田部会長：そうですね、やっぱり続ける・つくる、そのところで何が問題点かを出したいのが一番ですよ。

事務局：そこら辺は網羅的には事業ごとに追跡をしているか、していないかっていうことも確かに私たちもどこまでやっているかは把握できていないので、確かに必要だとは思っています。それをこれまでの市民推進会議でやっているのが、調査部会かと思えます。みどり税を基本的には使って何かやっていただいた所に対して、どうですかねっていうのをみんなで調べる。

高田部会長：そうですね。

事務局：だから、全数調査とかっていう統計的な調査ではないですが、成果がある所を特に私たちはピックアップして調査をしていた

だいた実績を使って、今度はそれをアピールしていくっていうやり方をしていました。

高田部会長：この会の議案ですね。

事務局：だから、部会長がおっしゃっているのは、全体的な成果をもう少しトータルとして捉えてみたい、そんなところですかね。

高橋委員：もし、一般的な人、不特定多数の人にアンケートを採ろうとすると、横浜市市民意識調査もありますよね。そういう中で少しみどりアップに関わる部分、この中でも緑の保全と緑化の推進とか出てきますが、みんなが関心を持つのは災害対応などの項目が多いですね。新たにみどりアップ関係の質問も入れていただけるとか、そういうのも検討してもいいのかもしれないですね、アンケート内で。

事務局：一般的なものを一番広く聞いているものは多分、その市民意識調査ですけど、経年で集計していくので、おそらくそんなに項目は変えないんですよ。

高田部会長：違う質問は入れられないのですか。

事務局：ただ、確か、eアンケートというのが募集がメインでやっている所からインターネットを通じてモニターさんに聞くという、何かテーマはありますかみたいなのはあるので、それは使うことはできます。

そういうツールは多分、うちの市役所の中で幾つか、一般的な市民意識調査に乗れるというのは探せばいくつかあると思います。

高橋委員：あとはみどりアップ関係のメルマガやニュースレターにアンケートを入れて回答してもらおうとか。

事務局：そういう方法もありますね。

高橋委員：どういうアンケートにするかというのも、私たちが、考えなきゃいけない。

事務局：一緒に考えないといけないですね。

高田部会長：ほかに何かご意見ありますか。

村松委員：絵画コンクールという案は私が書いたかもしれないのですが、絵画というより、写真のほうがいいかもしれない。神奈川区では、写真のグループがたくさんあって、かなつくホールなどで写真展をもう毎月のようにいろんなグループがやっています。写真コンクールで優秀作品12枚選んで、1カ月ずつのカレンダーにするとか、そういうのもいいかなと。

高田部会長：絵よりも写真ですよ。

事務局：みどりアップというタイトルでやるのであれば、市民の森の中で撮影してきてくださっていうふうにして、その中から選ぶなど、そういうイメージですよ。

	<p>高橋委員：　そうですね。写真のほうが、みんなが参加しやすいですね。</p> <p>事務局：　　では本日いただいた意見を整理し直して次回の部会にてご提示します。</p> <p>高田部会長：はい。では今日はこれで終わります。</p>
<p>資　料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 配布資料1　　市民推進会議広報誌第36号原稿案 配布資料2　　見える化企画案</p>